



当院では、他医療機関からのご紹介による患者受診受付を、患者支援部門地域連携室で承っております。

患者さまのご紹介

受診・検査・入院予約について

直通ダイヤル

TEL 011-817-5120 FAX 011-817-5130

予約・予約変更の電話受付時間 月曜～金曜 9:00～17:00 / 土曜 9:00～12:00

ご紹介の流れ

当院では、適切な説明のもとに、受診される方の意志が尊重され、最良の治療やケアが選択されるよう努力しております。患者さま・ご家族の皆様と緩和ケアの方針に齟齬が生まれないよう、可能な限りご説明に関わる情報についてご提供いたしますようお願い申し上げます。

一般外来受診希望者のご紹介

セカンドオピニオン外来、病をよく識る外来(病理相談)を除く

1 ご紹介元医療機関が電話またはFAXを送信

【診療予約(一般外来)申込票Word】にて予約日時、患者受診科を決定します

2 東札幌病院地域連携室がご紹介元医療機関にFAX

●東札幌病院受診予約票 (Word)
●問診票 (PDF)

3 ご紹介元医療機関が患者さまへ書類をお渡し

●紹介状 [診療情報提供書 (投薬情報含む)]
●予約票 ●問診票

4 患者さまが予約日時に外来受診

●保険証 ●紹介状
●予約票 ●問診票 などを持参

※診療予約(一般外来)申込票、東札幌病院受診予約票、外来問診票、外来外科(肛門科)問診票、外来外科(乳腺)問診票、外来歯科・歯科口腔外科問診票は、当院ホームページでダウンロードできます。

〈各種申込票・予約票・問診票ダウンロード〉
<https://www.hsh.or.jp/medical-personnel/>

緩和ケア目的での入院、外来通院希望者のご紹介

1 ご紹介元医療機関が電話にてご連絡

まずはお電話ください。

2 東札幌病院地域連携室が受診日を調整

基本的に、ご相談のお電話をいただいた際に調整をいたします。

3 ご紹介元医療機関が当院へFAX送信

●診療情報提供書(処方内容含む)のコピー
●患者情報用紙または看護添書のコピー
●保険証のコピー

4 患者さまが予約日時に受診

●診療情報提供書(処方内容含む)の原本
●患者情報用紙または看護添書
●検査画像(直近のもの)および採血データ
●保険証原本 ●外来問診票を持参

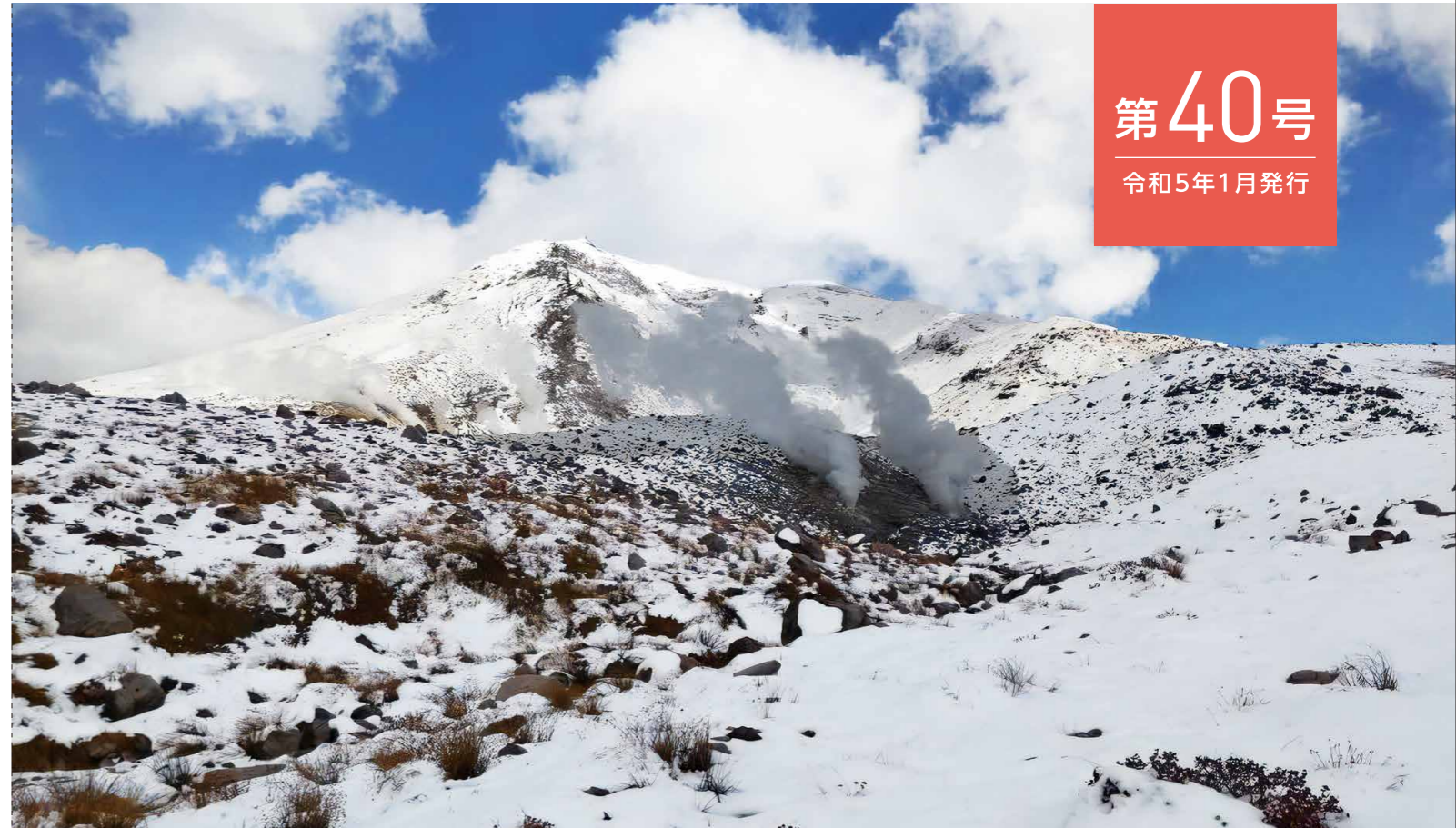
※外来問診票は、「患者のみ受診」もしくは「患者と家族が受診」する場合は患者用の外来問診票を、「家族のみ受診」する場合は家族用の外来問診票をご持参ください。※入院・転院患者情報用紙、外来問診票(患者用・家族用)は当院ホームページでダウンロードできます。<https://www.hsh.or.jp/medical-personnel/>
※保険診療となります。診断群分類包括制度(DPC)の場合など、医師課あての連絡文書をお願いします。

医療法人東札幌病院

がん相談支援センターだより

第40号

令和5年1月発行



がん相談支援(患者支援)センターについて 「コミュニティによるがん患者支援」 大井賢一先生をお招きして

(NPO法人がんサポートコミュニティ)

東札幌病院 内科系包括支援センター長 鳥本悦宏

着任医師よりご挨拶

外科 信岡隆幸

第19回 北海道胃瘻研究会を主催して

外科 信岡隆幸

医療技術部 リハビリテーション課について

医療技術部 リハビリテーション課 紺田歩優

関連施設のご紹介

厚別老人保健施設 ディ・グリーン
〒004-0007 札幌市厚別区厚別町下野幌38番18
TEL 011-898-5580 FAX 011-898-6760

在宅療養支援診療所 ヘルスケアクリニック光
〒003-0024 札幌市白石区本郷通11丁目南3番26号
TEL 011-860-1043 FAX 011-860-1044

訪問看護ステーション 東札幌
〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35
TEL 011-812-2600 FAX 011-812-2605

ヘルパーステーション 東札幌
〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35
TEL 011-841-1129 FAX 011-812-2533

訪問看護ステーション みずほ
〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条1丁目12番28号
長谷川第2ビル 2階
TEL 011-807-5855 FAX 011-807-5157

指定居宅介護支援事業所 東札幌
〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35
TEL 011-812-2500 FAX 011-812-2533

指定居宅介護支援事業所
ディ・グリーン
〒004-0053 札幌市厚別区厚別中央3条1丁目
12番28号 長谷川第2ビル 2階
TEL 011-807-5156 FAX 011-807-5157

札幌市白石区 第2地域包括支援センター
〒003-0003 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番25
(株)グアビル 5階
TEL 011-837-6800 FAX 011-837-6801

介護予防センターもみじ台
〒004-0007 札幌市厚別区厚別町下野幌38番18
TEL 011-898-8660 FAX 011-898-6760

医療法人東札幌病院

〒003-8585 札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35
TEL 011-812-2311 FAX 011-823-9552

<https://www.hsh.or.jp/>

患者支援部
TEL 011-817-5120 (直通)
FAX 011-817-5130

発行責任者: 医療法人東札幌病院 患者支援部
編集責任者: 病院長 石谷邦彦



がん相談支援センターについて

内科系包括的治療センター長 鳥本悦宏

当院が令和4年4月より北海道がん診療連携指定病院に指定されるにあたって、がん相談支援センターが整備されました。2006年にがん対策基本法が制定され、同法に基づいてがん対策推進基本計画が策定されましたが、この基本計画の策定には、がん患者・家族が参画し、患者目線に立った内容が多く含まれています。がん患者・家族が、がん診療を受けながら、より人間らしい生活ができるような支援を受けられるための中心的部門としてがん相談支援センターが設置されています。本センターに求められている主な機能を整備要綱から抜粋すると以下のように定められています。

- 1 がんの病態や標準的治療法等、がんの治療に関する一般的な情報の提供
- 2 がんの予防やがん検診等に関する一般的な情報の提供
- 3 自施設で対応可能ながん種や治療法等の診療機能及び、連携する地域の医療機関に関する情報の提供
- 4 がん患者の療養生活に関する相談
- 5 就労に関する相談
- 6 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援

がんと診断されたものの診察室を1歩出た途端、頭が真っ白で何を説明されたのか、どうしたらいいのか、どこへ行ったらいいのかわからないといった患者さんや、治療ができなくな

り、医師から見放され、行き場をなくしてしまういわゆる「がん難民」の受け皿として、改めてがんの一般的な知識や標準的な治療法、適切な治療が可能な医療機関などの情報を提供するとともに、患者さんと一緒に最適ながん治療の方向を決めるお手伝いをします。また、治療を受けている患者さんやそのご家族に対しても、治療や副作用に関する不安や疑問、経済的な問題、就労の問題（仕事を辞めなければならなかった、再就職したいがどのような仕事ならできるかなど）などに適切なアドレスを提供します。

がん診療の進歩によって長期生存が得られるようになり、がんサバイバーという言葉が使われるようになりました。しかしながら何らかの身体的・精神的な不都合を持ちながら生活されているかたも多く、それらのサポートも重要な役割となります。がん患者の気持ち、辛さ等は同じがん患者でなければ理解できないということも多く、他のがん患者との情報交換の場である患者サロンや患者会の情報提供あるいは開催支援を行い、患者さんがより積極的な日常生活を送れる手助けも担当することになります。

このようにがん相談支援センターは、単なるがんのよろず相談ではなく、がん患者さんがそれぞれの価値観に基づいた最善のがん治療を選択し、不安なく日常の生活を送れるための支援をする部門ということになります。

「コミュニティによるがん患者支援」

NPO法人がんサポートコミュニティ 大井賢一先生をお招きして

本センターの活動にあたって、9月29日、認定NPO法人がんサポートコミュニティの大井賢一先生にお越しいただき「コミュニティによるがん患者支援」というタイトルでご講演いただきました。大井先生は世界最大のがん患者支援団体の一つであるCancer Support Communityの日本支部で活躍されており、その目的や理念、活動の一端をお話になりました。人間はひとりではなくcommunityの中で活動しており、がん患者もがんひとりでは向き合わず、communityで支えることで、希望をもって自分らしく生きられるようになるということを目指されており、global standardでの視点に立った

患者支援の在り方をお示しになりました。日本と海外の患者さんには社会・文化・思想の違いに基づいたがんに対する考え方に違いがあるものの、人間の本質として人と人とのつながりを求めていることを話されました。具体的な活動として、専門家によるサポートグループによるところからだのケアやがんの情報提供・教育、一般市民への啓もう活動など幅広いがん患者支援活動を紹介いただきました。本院のかかげる「医療の本質は“やさしさ”にある」との理念と共鳴するところが多く、今後の本院のがん相談支援センターの活動に大変参考になるご講演でした。



▲NPO法人がんサポートコミュニティ大井賢一先生 ご講演の様子



外科

医師 信岡 隆幸

10月1日より東札幌病院の外科に着任しました信岡隆幸と申します。前任地の札幌医科大学消化器・総合、乳腺・内分泌外科では、上部消化管領域の外科治療を担当してまいりました。悪性腫瘍（食道がん・胃がん）の低侵襲手術（腹腔鏡やロボット手術）を中心に、GISTなどの低悪性度腫瘍に対する腹腔鏡・内視鏡合同手術（LECS）、食道裂孔ヘルニアやアカラシアなどの良性疾患や高度肥満症に対する外科治療なども行っていました。

大学病院という性質上、高い専門性と先進性を常に求められる中で、診断・治療から終末期の緩和医療までの一貫したがん診療を個々の患者さんに提供することは現実的ではありませんでした。しかしながら、北海道がん診療連携指定病院でもある東札幌病院は、各診療科の医師や医療スタッフが専門性の高い知識・技術を有しており、診断・治療から、緩和ケアまでシームレスに高度な医療を提供する体制が整備されており、総合的ながん診療を体現可能な環境であると思います。

私自身もこれまでの経験を活かして急性期のみならず、緩和医療においても手術のみに

拘ることなく外科医として貢献していければと思っております。

とくに前職で内科と共同で施行しておりましたスキルス胃癌などの難治性胃癌や切除不能・再発胃癌に対する3剤併用の化学療法（DCS /DOS療法）は当院でも施行可能であり、根治を目指したconversion手術も念頭に集学的治療なども展開できればと考えております。

当院に赴任後も前任の札幌医大には手術支援という形で定期的に出向いておりますので、大学病院とも連携し状況に応じて最新の治療を提供できるよう柔軟に対応していきたいと思っております。

また当院には札幌市を中心に全道から緩和ケアを求めて多くの患者さんが受診されています。同時に長年地域に根差した病院でもあり、周辺地域の皆様に気軽に頼っていただけるように日々の一般診療にも注力していきたいと思っております。

当院の理念であるやさしさに基づいた医療を提供すべく、微力ながら貢献できるように、私自身も勉強していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



開催報告

第19回北海道胃瘻研究会を開催して

外科 信岡 隆幸



この度、2022年11月19日（土）に第19回北海道胃瘻研究会を当番世話人として開催させていただきました。会場は11月に完成した札幌医科大学の新キャンパス内の教育研究棟で、研究会の隣の会場では新キャンパス落成記念式典が開催されてい

ました。おりしも道内は新型コロナウイルス感染が「第8波」を迎え、人口10万人当たりの感染者数は、全国でトップという厳しい状況下での開催となりました。

そのような状況下にもかかわらず、100名ほどの皆さまが実際に会場にご参加いただきました。会の内容としましては、道内の栄養療法におけるリーダー的な先生方から、一般演題13演題と数多くご応募いただき、当院内科の長岡康裕先生のご司会のもと活発な討論がなされました。教育講演では当院内科の日下部俊朗先生に『緩和ケアとPEG』という内容でご講演いただきました。緩和ケアの成り立ちから、栄養療法やPEGの使用法など実践的なお話まで分かり易くご講演いただきました。

特別講演は千葉県がんセンターの鍋谷圭宏先生を

お招きして『今改めて考える一腸を使う適切な栄養管理とは？』というテーマでご講演いただきました。

「腸を使えるときは腸を使う」という大原則にとられ過ぎて、静脈栄養を併用しないで不十分な経腸栄養による低栄養状態、ERASやクリニカルパスなどの画一化された管理の問題点などを豊富な事例を交えてご説明いただきました。とくに個々の患者さんに応じて適切な栄養管理（個別化管理）を考えることの重要性を強調され、まさに当院の基本方針でもある患者さんの価値観や生き甲斐など、生活や人生の質的な面に重点をおき、「もっともその人らしい」生活となることを尊重した医療と看護に繋がるものであると拝聴いたしました。

コロナ禍で各医療施設たいへんな状況にもかかわらず参加いただいた皆様にも、十分にご満足いただける実り多い内容の研究会になったと思います。開催にあたり協賛いただきました各企業の皆さま、当日運営に協力してくれた当院の職員の方々にも、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

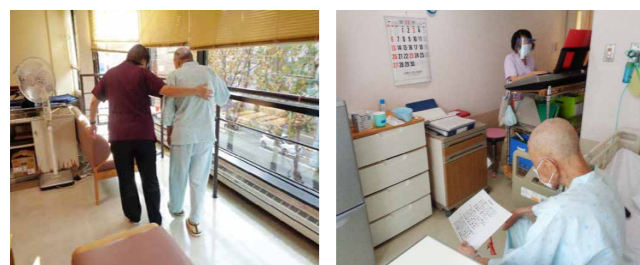


東札幌病院における リハビリテーションについて

医療技術部 リハビリテーション課
作業療法士 紺田歩優

リハビリテーション課は、理学療法士2名、作業療法士4名、言語聴覚士1名、音楽療法士1名の計8名で活動しています。一部のスタッフは当院に併設されている訪問看護ステーション東札幌にも所属しており、訪問リハビリテーション業務を兼務しています。

当院には一般病棟（5病棟）と緩和ケア病棟（2病棟）があり、入院患者さんを対象としてリハビリテーションを提供しています。一般病棟では、がんリハビリテーション料、疾患別リハビリテーション料（脳血管疾患等、廃用症候群、運動器疾患、呼吸器疾患）を算定しています。リハビリテーション専用の部屋はありませんが、多目的ホールの一部を兼用で使用しており、主にベッドサイドや病棟内でリハビリテーションを実施しています。リハビリテーションの要請全てに対して、迅速な対応が困難な状況もありますが、優先度を考えながら介入しています。当院はがん専門病院ということもあり、2021年度にリハビリテーションを処方された患者さんの8割の方ががん患者さんでした。手術や抗がん剤治療、症状緩和、緩和ケア等、がんの治療から緩和ケアまで、



様々な病期の患者さんのリハビリテーションを行っているのが、当院の特徴の一つだと思います。病院全体で緩和ケアには特に力を入れており、患者さんやご家族の皆さまの要望を聞きながら、病状や症状に合わせてより良く過ごせることを目指して介入しています。

■ リハビリテーション実績 2021年度

リハビリテーション処方数	1,015名
がんリハビリテーション料該当患者数	552名

■ リハビリテーションを処方されたがん患者さんの臓器別件数 2021年度

原発部位	人数	原発部位	人数
肺	137名	胃	65名
生殖器	35名	脳・神経	17名
腸	113名	頭頸部	61名
泌尿器	33名	甲状腺	7名
乳腺	86名	血液	58名
腎臓	22名	原発不明	8名
膵臓	81名	胆・肝	50名
骨	22名	その他	10名
合計 805名			

■ リハビリテーション終了者の転帰 2021年度

逝去	自宅退院	施設転院	転院
483名	271名	82名	58名
合計 894名			

〈当院での音楽療法について〉

音楽療法とは「心身の健康の維持・回復・増進といった治療目的を遂行するために音楽を用いること」とされており、当院には音楽療法士が常勤として勤務しています。音楽療法は医師の指示は必要なく、当院では看護師やリハスタッフ、患者さん本人、家族からの希望で開始されます。依頼の目的は、気分転換が一番多く、次いで心理的サポート、生活リズムを整える等があります。当院の音楽療法士は主にキーボードを使用し、患者さんと共に歌唱したり（能動的音楽療法）、鑑賞したり（受動的音楽療法）しています。COVID-19の流行以前は、患者さんを集めて集団音楽療法を行っていましたが、現在は全て個別音楽療法としています。

音楽療法は身体的な負担が少なく、病状が進行した状態でも介入しやすいのが特徴の一つだと思います。当院では、患者さんや家族の希望がある限り、最後まで介入することが多いです。



■ 音楽療法実績 2021年度

音楽療法依頼件数	155名
----------	------

■ 音楽療法を依頼されたがん患者さんの臓器別件数 2021年度

原発部位	人数	原発部位	人数
肺	20名	泌尿器	3名
胆・肝	9名	血液	11名
消化器	18名	脳・神経	3名
婦人科	8名	腎臓	11名
膵臓	14名	甲状腺	2名
胃	7名	頭頸部	9名
乳腺	12名	その他	2名
合計 130名			

■ 音楽療法終了者の転帰 2021年度

逝去	施設	自宅退院	転院
81名	20名	17名	15名
合計 133名			

